

サケの生態について (その2)

茨城水試図

【遡上サケの平均尾叉長】

遡上サケ親魚の年齢について内水試かわら版 NO167 号で紹介しましたが、今回は遡上親魚の体長と採捕率について紹介します。

遡上してきたサケ親魚の平均尾叉長(図1)は、3年魚で60cm程度、5年魚だと70cm以上(図2)に育って川に戻ってきます。また、オスよりもメスの方がやや大きいサイズで戻ってきます。

遡上サイズの推移を見ると全体的にやや小型化しており、近年は小型化・高齢化傾向にあり、全国的にこの傾向が見られています。

この要因として水産庁では、成魚に成長する北太平洋海域(ベーリング海など)でのサケの資源量が多いため、餌が不足していることが大きな要因であるとの見解を示しました。なお、今年度の調査結果では、北太平洋海域のサケ資源は減少しているとのことです。

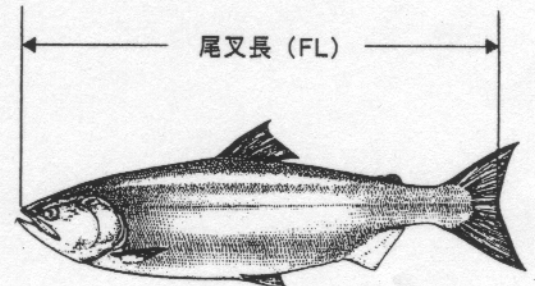


図1 サケの測定部位

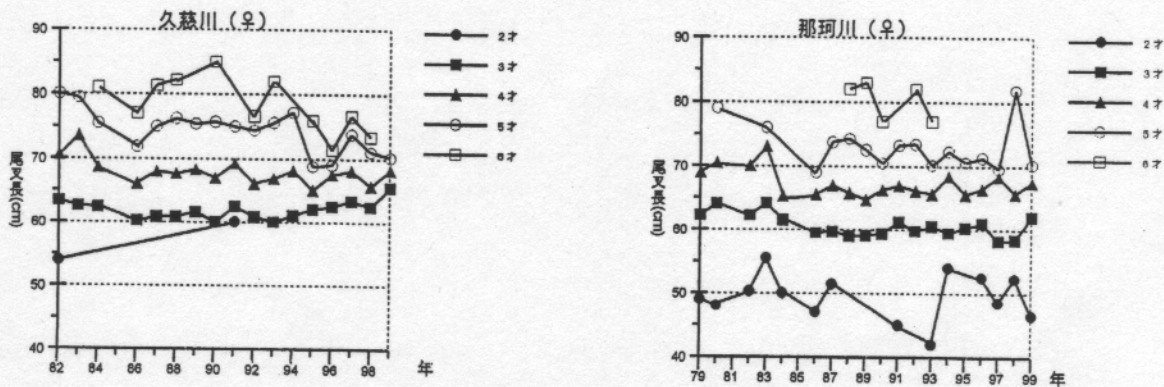


図2 遡上サケ(雌)の年齢別平均尾叉長の推移

【遡上サケの再捕率】

再捕率とは、当該年に放流したサケ稚魚の尾数に対し、2～6年後母川に戻ってきて採捕された親魚の尾数がどの程度の割合であったかを示しています。

久慈川は、1990年以前は2%前後が回帰していましたが、以降大きく低迷しています。これは、ふ化場を増設し放流量を増やしたのに対し、河川で採捕するサケの価値観が低下し、親魚捕獲量が減少しているためです。

那珂川は、放流年級ごとに差があり、1%以下の年もあれば2%を超える年もあり、健苗魚の飼育や適正な放流時期・放流サイズなどを検討し、高い回帰率で安定させることがこれからの課題となっています。

なお、1995年放流以降の採捕率は、次年以降に回帰する見込みの親魚が含まれていないため未確定値です。

また、再捕率には河川取り残し分が考慮されていないため、実際の河川回帰率はこれより高くなります。

全国の主な回帰率は、北海道が4%程度と最も良く、次いで岩手が3%程度、宮城が2.5%程度ですが、それ以外のサケ放流事業を行っている福島や青森などは本県と同じ程度の回帰率となっています。

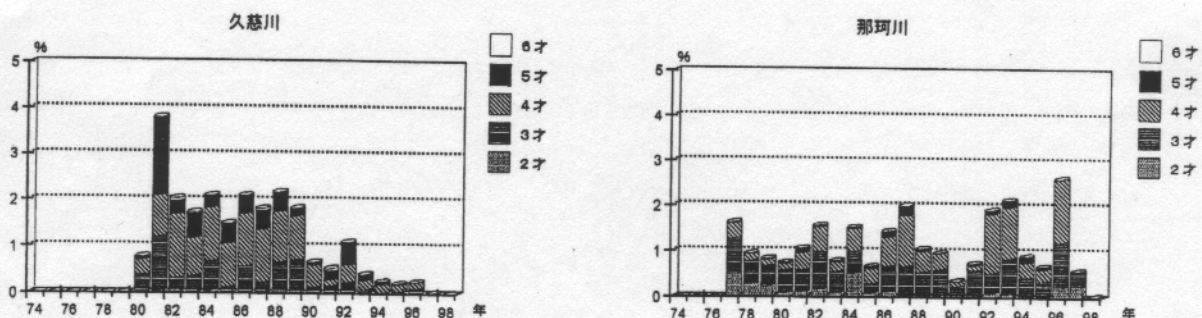


図3 放流年級別年齢別再捕率の推移

担当：里美支場 (TEL：0294-82-2448)

茨城県内水面水産試験場 (TEL：0299-55-0324)